

20 浪建 第 175 号
平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 様
(磐城国道事務所長経由)

福島県双葉郡浪江町長 馬 場 有



今後の道路行政についての意見・提案の提出について(回答)

常日頃より地方道路行政に対しまして、ご指導をいただきまして厚く御礼申し上げます。

さて、平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号で依頼のありました標記の意見等は別紙のとおりです。

事務担当 建設課 主幹兼課長補佐 原 芳美
TEL0240-34-2111 FAX0240-34-4198

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

福島県浪江町

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

道路は、地域文化を継承したり新たな文化を創造と考え、以下の点について要望提案いたします。

1. 道路改築等に相当の資金を要する(地方負担)が利用者制限はできない現状に鑑み国が負担すべきである。(補助割合)
2. 常磐道の早期開通が地域住民の悲願であったが、平成 23 年に開通するようになる。しかし、高速道に関する地域要望実現のため本町の財政負担が大きく、他の事業ができない現状である。国家として社会資本を整備するプロジェクトであるならば犠牲者があってはならないと考えますので、疲弊している地方を直ちに支援する方策を講ずるべきと考えます。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

福島県浪江町

○ 現状

当町では、失業対策事業で昭和40年代から60年代まで簡易舗装で道路を整備してきたが、老朽化等により維持管理に要する財政支出が増加の一途である。

近年、ゲリラ豪雨等による雨水対策が地域要望として増加傾向にある。

当町は、海から阿武隈山地まで広域であり、基準となる交通量等だけで整備の判断がつかない。

国策の原子力発電所10^基圏にあり、住民の安全安心の担保として避難道路の整備が急務である。

○課題

財政支出が膨大となる

地域住民の安全安心が担保できない。

人的交流が助長できない。

国の避難道路整備が未着手である。

「なかよく、みんな、笑顔で、ともに築こう安心なまち」ということで、自然との共生や住民参画社会、快適な環境等が笑顔で目指すという理念に基づき施策を展開しています。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

福島県浪江町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	常磐道 国道 114 号拡幅事業	① 道路ネットワーク化の構築による交流が期待される。 ② 地域の文化が新たに創られる。	
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	常磐道 国道 114 号 県道広野小高線ほか	① 地域の方々が愛着をもって利用できる。 ② 東西軸としての幹線であり、高速道へのアクセス道の機能を有する。	
・少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成		① 原子力発電所から当町は、10 ㌾圏にあって避難道路の位置づけである。 ② 交通量もあり、生活弱者の安全安心が確保される。 ③ 中心市街地への玄関口でもある。 ④ 地域の特性を生かした施策が展開でき地域活性化を助長できる。	
⋮			